

具体的な主な取組例

1. 渥美半島生態系ネットワーク形成の意義の共有・発信

豊かな自然の恵みを活かし、人の営みと自然との調和を図る生態系ネットワーク形成の取組を基調テーマとした啓発フォーラム等を開催する。

2. 生態系ネットワークの形成に向けた取組

NO.	エリア	概要
1	伊良湖地区	伊良湖休暇村園地において、原風景である砂丘と湿地を再現することなどにより、生態系ネットワークの拠点や観光の拠点とする。
2	西部田園地区	マツ枯れが見られる列状の防風林を再生し、特徴的な景観や生きものの生息地や移動経路としての質の向上を図る。
3	表浜地区	アカウミガメが産卵に訪れる砂浜や崖森の保全・活用、周辺集落や農地での生物生息空間としての質の維持・向上を図る。
4	福江湾地区	様々な貝がとれる伊川津がある福江湾地区の特性を生かして、干潟の保全活動や生きもの観察、潮干狩り、貝を食すツアーに加えて、流域での一体的な環境保全型農業などを総合的に展開する。
5	三河湾岸地区	カニの仲間や、サギ類などの水鳥、ウナギなどのすみかになっている川の連続性を再生するとともに、流域での一体的な環境保全型農業など総合的に美しいふるさとの川づくりを展開する。
6	山並み地区	様々な自然歩道を活用して、自然林が残る社叢や二次林が広がる里山、東海丘陵要素植物がみられる湿地、優れた展望スポットなどをめぐりながら、渥美半島の自然拠点を知り守るきっかけをつくる。
7	田原中心市街地地区	地球規模の生態系ネットワークの拠点になっている汐川干潟や、先人が築いてきた自然や歴史・文化資源を再確認し、守りつなぐ。
8	姫島・笠山地区	でえたらぼっちなど古くからの伝説が残る姫島や笠山で、蛇紋岩地質特有の植物や動物が生息生育する環境を守るとともに、大地が生んだ固有の価値を再発見し、新たな観光資源として活用する。
9	臨海緑地地区	緩衝緑地帯に囲まれた海辺の水田や湿地を保全し、サギ類やコハクチョウをはじめ、多くの野鳥との共生を図る。

